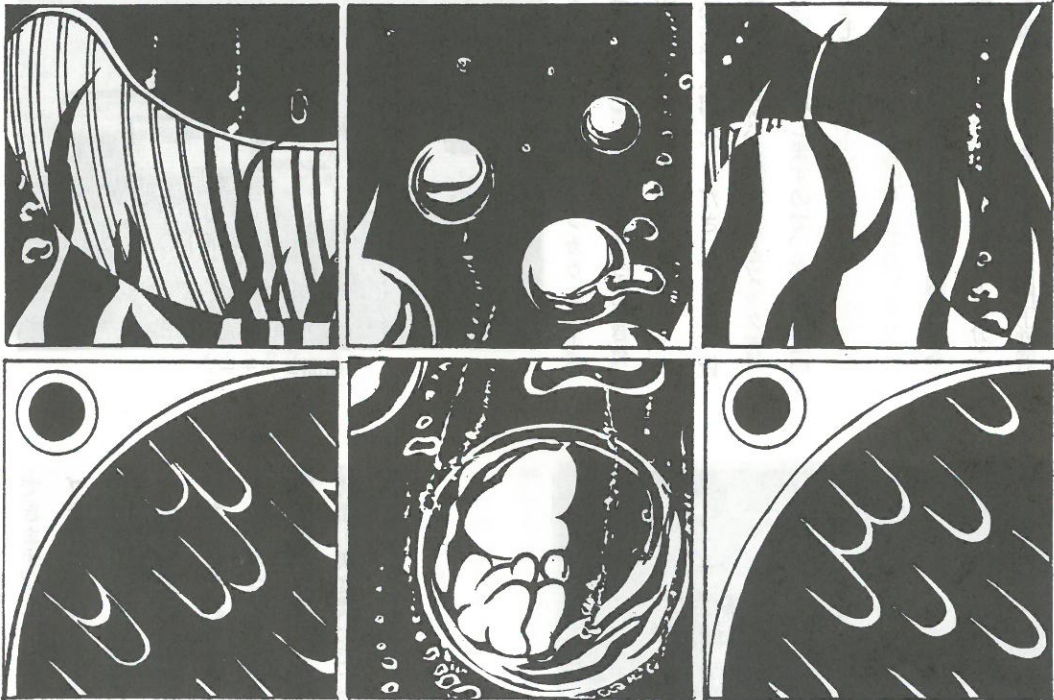


TOYO UNIVERSITY LIBRARY INFORMATION BULLETIN

ΚΟΣΜΟΣ

特集

白山新図書館紹介



中島 雅さん画 (法学部・法律学科1年)

1F

エントランスホール
 図書館の入口を入った横に、テレビの画面が6つあります。(6面マルチビジョン)
 こちらでは、主に図書館ニュース、本学所蔵の貴重書紹介のビデオ、環境ビデオ、衛星放送の画像などを放映する予定です。
インフォメーションカウンター
 こちらのカウンターでは、図書館に関する総合的な利用案内を行っております。(資料の貸出・返却や、レファレンスに関する)

白山新図書館オープン

〈NEW 図書館に集合しよう!〉

待ちに待った白山新図書館(図書館・研究棟)が6月1日にオープンしました。今回はいち早く、利用者の皆さんに新しい図書館内をご案内いたします。

[概要] 図書館・研究棟(16階建て)の地上2階、地下2階(地下1階586席・地下2階263席)〔グループ学習室・ワープロコーナー・メディアスクエアの席を含む〕 所蔵可能
 また情報検索コーナー(地下1階・地下2階)で、OPでは、学習機能設備の充実をはかり、メディアスクエアなお、教職員・学生の皆さんは、IDカード(学生証)のように心掛けて下さい。

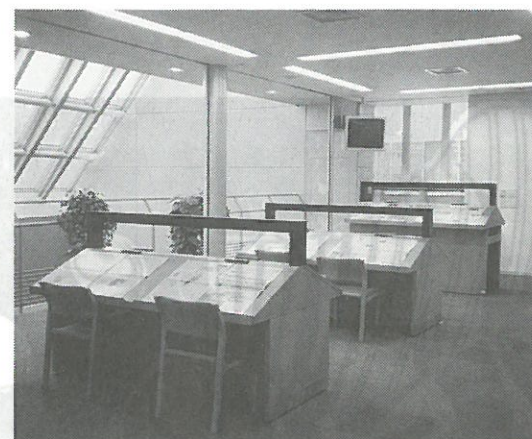
2階。専有面積6,443.78㎡(約1,950坪)、閲覧席849席
 AC用端末を増設し、グループ学習室1・2・3(地下1階(地下2階)では最新AV設備が揃えてあります。がないと入館することができませんので、常時、携帯す

B1F

メインカウンター

ここでは資料の貸出・返却のほか、文献探索や学外機関利用の相談・グループ学習室の予約受付、忘れ物の管理などをいたします。

受付時間は閉館の15分前までです。
 利用者の皆さんが資料を借りる場合にはIDカードが必要です。返却の際には、資料のみご持参下さい。その他、貸出中の資料を予約したり、同じ資料を継続して借り



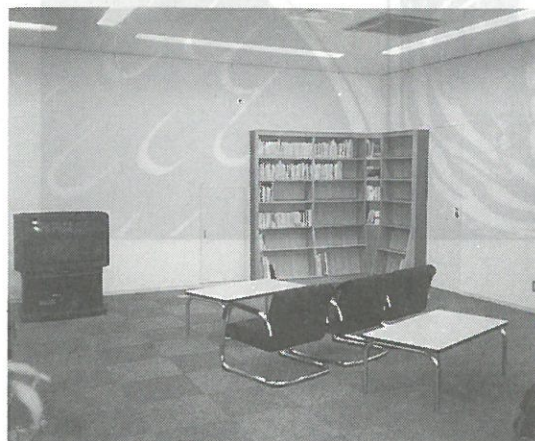
新聞コーナー

することは地下1階のメインカウンターにて受付けています。また、入館するときは、学生証(IDカード)をゲートのスロットに差し込んで入館してください。また、貸出手続きをしないで、退館するとブックデイトクションが反応しますので、必ず所定の手続きをして下さい。

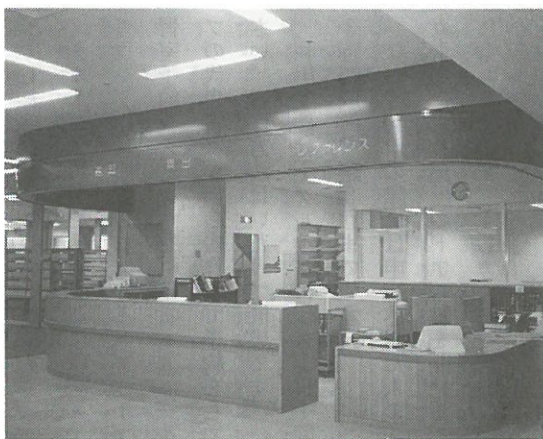
新聞コーナー

朝日・毎日・読売・日経新聞をはじめ、外国新聞・スポーツ新聞(最新3ヶ月分)・縮刷版も置いてあります。また、椅子席もありますので、座ってゆっくり読むことが

できます。
ブラウジングコーナー
 図書館内で気楽に本が読める憩いの場です。軽い読み物や娯楽雑誌があり、くつろいだ気分での読書を楽しむことができます。また、カウンター式のテーブルがあるのも特徴の一つです。(なお、図書館内は全館禁煙・飲食禁止です。)



ブラウジングコーナー

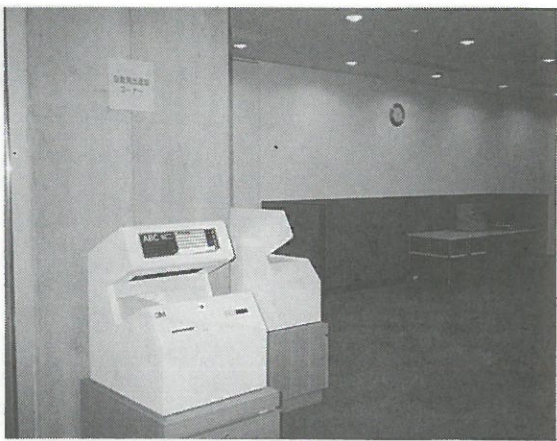


メインカウンター

際の手続きなどもここで受付けています。利用者の皆さんの必要とする資料が当館にない場合にはレファレンスコーナーでご相談下さい。資料が学外のどの機関にあるのかを調べ、紹介状を発行したり、コピーを取らせるなどのサービスをいたします。また、資料の検索方法がわからない等、図書館利用についてご不明の点があれば気軽に声をおかけ下さい。

自動貸出返却システム

カウンターに立寄らなくても利用者自身が操作(実に簡単!)することで資料を



自動貸出返却システム

借りたり、返却できる装置です。
 なお、和装本等一部資料はメインカウンターでのみ貸出・返却の取扱いをいたします。メインカウンター・ABC装置ともに貸出条件等は同じです。

専任教職員著作コーナー

本学に在籍する教職員の著作を学部・学科ごとに配列してあります。授業等の参考にご利用下さい。

雑誌コーナー

よく利用される学術雑誌、主として日本国内で発行されたものが多数を占め、他に

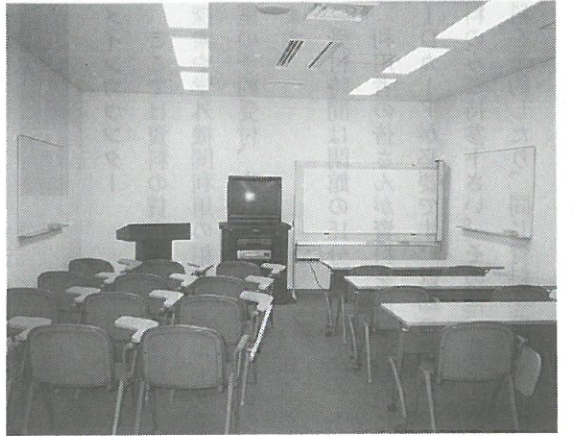


電動書庫

ています。操作が難しいとの声も聞かれますが、慣れれば様々な検索が可能となりますので、積極的に活用してください。

電動書庫

スペースを有効に利用するため、電動集密式となっていますので、目的の書架の通路を電動で開けて利用します。専門性が高い図書・雑誌が配架されています。A・B・Cの3つのブロックに分かれていて、A・Bブロックは、学生証・教職員身分証明書（IDカード）をリーダーに読み取らせることにより自由に入るシステムとなっています。



グループ学習室 1

外国雑誌、学内出版物、合わせて約六〇〇種類が展示されております。

グループ学習室

グループ学習室は1・2・3と3室あり、各々の収容人数は、30名、18名、14名となっています。各室には、ホワイトボード、OHP、書画装置、ビデオデッキ、モニター等が設置されています。机の形状は部屋ごとにデザインを変え、利用人数に応じて組合せが変えられるように配慮してあります。また、ビデオ、OHPなどの視聴覚機器を活用することで、各人の意見発表の方法な

どに工夫をこらすことができます。

グループ学習室を使用するには、メインカウンターに設置されている「グループ学習室予約システム」を利用者本人（グループの代表者）が自ら操作して予約をして下さい。操作方法はいたって簡単です。

利用条件は1グループにつき1日1回、3時間以内、週3回までです。

なお、利用の際には申し込んだ人のIDカードにより部屋のドアの鍵を開けることになり、IDカードを忘れないようにして下さい。

閲覧席

地下1階には524の閲覧席があり、利用頻度の高い参考書（全分野）、一般図書の社会科学、自然科学分野他の資料が配架されており、自由に手にとって閲覧することができます。

また、3台の車椅子専用キャレルが設置されています。

閲覧席の一部はワープロを利用するためのワープロコーナーとして、電源のコンセントを設置しています。レポート・論文作成にあたり最適なスペースだと思います。

ます。Cブロックには、哲学堂文庫・カール・エンギッシュ文庫・百人一首関係資料が収蔵されていて、入庫するにはメインカウンターでの手続きが必要です（学部生を除く）。

マイクロ資料室

新館ではマイクロ専用の資料室を設けました。仏典・国文関係に珍しいものが多く、また、朝日新聞は創刊号から揃っています。マイクロリーダーは2台設置されています。入室する際はメインカウンターでの手続きが必要です。

特殊資料室

こちらの資料室には、円了文庫および坂口安吾関係の資料が収められています。

メディアスクエア

新図書館の特徴の一つでもあるメディアスクエアは、31の個人ブースと2つのグループ・ブース（5人掛け）で構成されています。利用手続きは自動化され、利用するブースや利用時間などは、コンピュータで自動制御されます。CD・ビデオテープ・カセットテープはもちろんのこと、レーザーディスクも視聴できます。また、ブースのテー

B2F

閲覧席

地下2階には閲覧席が211席あります。

（電動書庫内のキャレルを含む）この閲覧席には蛍光灯が付いています。椅子は地下1階のものと違い高さを調節できるタイプになっています。

情報検索コーナー

TRITON-OPAC（オンライン目録）の端末が3台設置されています。現在までに全蔵書の約25%のデータが入力され



情報検索コーナー



メディアスクエア

最新の設備を誇る新図書館ですが、利用者の方々はくれぐれも規則を守り、学術・研究の場としての図書館を効果的にご利用ください。

『源氏物語』の影響を色濃く受けていると見られる。この作品は、全四巻から成る物語であって、古くは『狭衣』または『狭衣大将』と呼ばれていた。作者を紫式部の娘大式三位とする説もあったが、現在では、後朱雀天皇皇女の六条斎院祿子内親王の侍女の宣旨（源頼国の娘）であろうとする説が定説化しつつある。その宣旨が没したのは寛治六年（一〇九二）

であるから、それ以前の成立ということになるであろう。しかし、その具體的な成立年時については諸説があり、いまだに確定してはいない。およそ十一世紀後半、つまり、ほぼ白河天皇のころ（延久〜応徳年間）の成立かと目されている。

ところで、この物語の主人公は、狭衣の大将と呼ばれる貴公子であって、容貌・才芸ともに秀れている人物である。一つ家に兄妹のように育てられている従妹の源氏の宮（先帝の皇女）に懸想するが、拒否され

て果たせない。理想の女性である源氏の宮への思いが遂げられないままに、飛鳥井姫、女二の宮、一品の宮、宰相の中將の妹君などといった多くの女性たちとの恋の遍歴を重ねてゆく。だが彼の心は満たされず、いつまでも物思いが尽きないのであったというストーリーである。このような心の内側の憂愁さとは反対に、彼は後に帝位につく

貴重書解題
伝二条為明筆本
『狭衣』（重要文化財）
神作光一

という筋の展開をも見せる。

『うつほ物語』の音楽伝承譚や『源氏物語』の作中人物の経歴や趣向などを巧みに取り入れてまとめあげた作者の手腕には見るべきものがある。しかし、神異や神託などを用いて、変化と波瀾とを加えたため、超自然的、非現実的な面が目立ち、斬新さに欠けているとも評し得る。鎌倉時代初期に成立した『無名草子』という評論書を見

ると、『狭衣』について、次のように批評している。

『狭衣』こそ『源氏』に次ぎてはよう覚え侍れ。「少年の春は」とうちははじめたるより、言葉遣ひ何となく艶に、いみじく上衆めかしくなどあれど、さしてその節と取り立てて心にしむばかりの所などは、いと見えす。また、さらでもありなむとおぼゆることも、いと多かり。

つまり、「文章がほのぼのと美しく、非常に気品がある」点を評価し、物語としては「特にどの点といって心にしみる所は全くない。そうでなくても良からうと思われる部分も非常に多い」点を批判していると読める。『狭衣』という作品の特色を、よく言い当てていると言えるであろう。

なお、この『狭衣』の影響下にあるものとして、中世の『源氏狭衣百番歌合』や『狭衣の草子』をはじめとして、多くの擬古物語、お伽草子、宴曲、謡曲などを挙げることができる。とりわけ、この物語の冒頭部分および飛鳥井姫の入水のくだりなどは、広く読まれたようである。

さて、先般本学の白山図書館が受け入れ、今回ここで取り上げることになった重要文化財の『狭衣』は、伝二条為明筆による古写本として貴重な資料である。次に、その書誌を簡潔に記しておく。

卷冊数 四卷四帖。三重の箱入。
装釘 綴葉装拵型本。縦一七・三種 横一五・五種。

表紙 四帖とも同じ藍の地文に、黒丸の中に金糸で唐草を織り込み、菊花紋式に配列した織文の古代裂。

本文 料紙は斐楮混漉紙。

製本 四卷各一帖ごとに綴葉装に製本。

卷一は十三括り 卷二は十三括り

卷三は十九括り 卷四は十一括り

墨付 卷一は二三丁 卷二は二八丁

卷三は一九二丁 卷四は一四八丁

書写者 四卷各帖とも墨筆で、二名による寄合書。古筆了仲の極札には「二条

家黄門為明卿」とある。書写者二名中の

いずれの筆跡を二条為明筆と鑑定した

のかは不明。よって、為明(一二九

五〜一三六四)筆であるかどうかは、

なお今後の検討が必要であろうが、本

書の四帖が、ほぼ為明の時代、つまり鎌倉末期から南北朝初期の書写本であることは、まちがいないであろう。卷一・卷三、卷二・卷四が同筆のようである。

相伝者 極札、押紙、箱書の文字などに

よって、烏丸光栄旧蔵、飛鳥井雅康旧

蔵であること、さらに昭和十五年の重

美認定により中山輔親侯爵旧蔵である

ことがわかる。昭和四十七年に重要文

化財指定。

伝本が多く、本文に入りの多いことで知られるこの物語の研究にとって、本書の果たす役割は極めて大きい。因みに、本書の書誌に関しては、吉田幸一博士のご労作

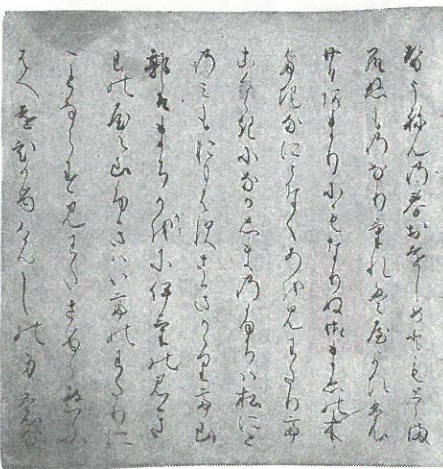
『狭衣物語諸本集成第一卷』(笠間書院刊)

に負う所が多大である。ここに記して、深く感謝の意を捧げたい。

(文学部教授・かんさくこういち)



狭衣 内箱表



狭衣 卷一

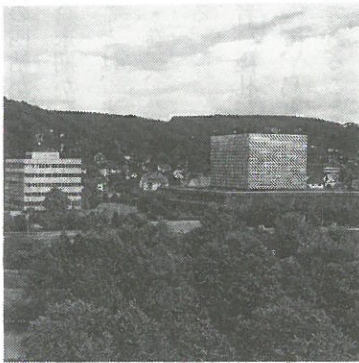
外国の図書館シリーズ —その13—

マールブルク大学

加賀 宗彦

よく知られているように四年間で大学を卒業するのは皆無、通常は六〜七年かかって卒業するドイツの大学生。理由をマールブルク大学の学生にたずねると「生活費を自分で稼いでいるから」と答える。日本の親は学費を全額援助するのかと聞かれ、「そうだ」と答えると、真面目な顔でジーと見つめられる。一瞬、まずい慣習かと呵責を感じる。東洋大学と協定を結んでいるマールブルク大学は、フランクフルトから約一〇〇km北の古都マールブルクにある。正式にはフライリップス大学マールブルクと呼ばれる。マールブルクの町にはいると小高い丘の上にある方伯の城がひとときわ目に付く。お城のふもととは旧市内で石畳でおおわれた典型的なドイツの木組の素朴な家の町並みが広がる。しかし、町を歩いていると様相は一変する。マールブルクの人口は約八万人で、この内、約二万人は学生、さらに六千人は教員や若い研究員でしめられている。また、世界八〇カ国から来た二千人の留学生が滞在しており、まさに若者であふれたエネル

ギッシュな国際都市を感じる。このエネルギッシュな学生が学ぶ大学の校舎は、大きく区分すると、物理系と人文系は旧市街地周辺に分散しており、自然科学系、医学系は町の北側約七km郊外の自然に囲まれた丘の上にある。大学の図書館は、旧市街地周辺にある各講義室から、徒歩や自転車で行くことができる位置に設置され、写真のようにならに外壁が金属の反射板でおおわれた近代的な建物である。しかし、自然科学系や医学系の学生はこの近代的な図書館を便利に利用できないので、それぞれの学科で図書分館を持っている。私は分館を利用してしたが、混み合うこともなく、ノートや二〜三冊の本を広げるスペースは十分確保できた。ただ、コピー機は日本の様に何台も設置されていない。文献や本を複写するコピー機は一台あるのみである。したがって、コピー機の前にはいつも順番待ちの小行列が



(右側が図書館)

図書館アラカルト

▽新図書館の開館時間について

(月)〜(金) 9時〜21時30分

(土) 9時〜20時

また、休館日については、日曜日・祝日・本学または図書館が定めた日となりますので、間違いないようご利用下さい。

その他のお知らせについては図書館発行のパンフ・掲示等をご覧下さい。

ΚΟΣΜΟΣ (No.110)

1995年6月15日発行

発行人：今井光太郎

発行所：東洋大学図書館

〒112 文京区白山5-28-20

TEL 03-3945-7327

© 東洋大学図書館 1995